

# 国道230号協働型道路マネジメント検討会 の取り組み —地域情報PRイベントや大学共同プロジェクト—

札幌開発建設部 都市圏道路計画課 ○上村 達也  
北見工業大学 社会環境工学科 高橋 清  
札幌開発建設部 都市圏道路計画課 池田 和也

本検討会は、国道230号の札幌市南区において、協働型道路マネジメントの取り組みを実施している。本稿では、「ヒヤリハットマップ配布」や「さくらの森周辺道路空間検討」等検討会自らが実施する取り組み、「豊滝除雪ステーションでの地域情報の発信PRイベント」や「東海大学共同プロジェクト」など関係機関等と共同で実施する取り組み等について報告する。

キーワード：連携・協働、多様な連携・協働、住民参加、地域活性化

## 1. はじめに

北海道は、その広大な大地と豊かな自然を活かし、農林水産業や観光業を主要産業として、国内外に様々な貢献を行ってきた。一方、人口減少や高齢化は全国に先駆け進行しており、地域の社会経済活動・活力を如何に維持・向上させていくかが課題となっている。従って、北海道における道路の計画・整備・管理運用にあたっては、「広域分散型の都市構造への対応」や「厳しい積雪寒冷期における走行環境の保全」に加え、「地場産品の円滑な輸送」、「魅力的な観光資源の活用」など、地域活性化に、如何に支援・貢献できるかが重要となっている。さらに、財政状況の変化等を踏まえ、限られた予算を効率的・効果的に活用し、地域やユーザーの様々なニーズへどう適切に対応できるかが、これまで以上に強く求められている。

札幌開発建設部では、次の3点のポイント(表-1)

- ①「北海道の地域特性に応じた効率的な整備・運用」
  - ②「多様な道路利用者ニーズへの的確な対応」
  - ③「地域との連携・協働による相乗的な効果の発現」
- を踏まえ、多様な主体と連携する「協働型道路マネジメント」の取り組みを進めている。

本稿では、平成25年度より国道230号 札幌市南区で実施している「国道230号協働型道路マネジメント」について報告を行う。

## 2. 対象路線の概要

### (1) 路線の選定

札幌開発建設部では、管轄する道路について、路線性能の「速達性/信頼性」「安全性・安心性」「快適性・

Tatsuya uemura, Kiyoshi takahashi, Kazuya ikeda

### 協働型道路マネジメント導入の背景

- ①「北海道の地域特性に応じた効率的な整備・運用」  
北海道の優れた資源・特性を活かし、地域の活力ある発展を図るため、民間や地域の主体的な活動を支援し、また、これらの活動を支える道路が効果的に利活用されるよう、的確にその機能を維持するための整備・運用
- ②多様な道路利用者ニーズへの的確な対応  
地域資源を活かした魅力的な地域づくりを図るため、地域と行政が一体となって多様な利用者ニーズを的確に捉え、即地的にそれらを反映させた道路の整備・運用を総合的、かつ継続的に行う。
- ③「地域との連携・協働による相乗的な効果の発現」  
道路をきっかけとした地域活動を通じ、地域コミュニケーションの向上、地域の活性化を図るとともに、道路事業の客観性や透明性が向上することにより、道路の整備・運用への積極的かつ自立的な参加を促す。

表-1 協働型道路マネジメント導入の背景

娯楽性」と「地域活動」を基本的な視点に情報を整理した(表-2)。地域と連携する協働型の取り組みの観点から道路に対する地域住民の関心が高く、活動実績がある路線として、シーニックバイウェイ北海道の指定ルートである国道36号、国道230号、国道276号、国道453号の4路線を抽出。この4路線の中でも、国道230号は、札幌シーニックバイウェイの基幹ルートである他、ボランティアサポートプログラムの実績が多く、

道路における地域活動が継続されていることから、協働型道路マネジメントの素地が有ると考えられた。さらに、市街地と郊外部で特性が分かれ、市街地では、「交通量の多さによる旅行速度の低下や事故危険区間」、郊外部では、「特殊通行規制区間に設定される中山峠で平成24、25年度に2年連続で大規模災害による長期期間の通行止めが発生する」など道路維持管理に関する課題の解決が望まれていた。これら課題の解消に向けては、地域ニーズ等を的確に把握し、効果的・効率的な維持管理手法である協働型道路マネジメントの取り組みを導入することが効果的と考えられることから国道230号札幌市南区を対象に、協働型道路マネジメントを実施することとした。

分類	収集情報(指標)
速達性・円滑性/信頼性	24時間交通量、平均旅行速度
安全性・安心性	事故危険区間、通行規制区間
快適性・娯楽性	道の駅、主な観光資源等
地域活動	シーニックバイウェイの指定
	VSP(ボランティアサポートプログラム)

表-2 路線選定の基本的な視点と収集情報(指標)

## (2) 一般国道230号の概要

一般国道230号は、札幌市を起点とし、せたな町を終点とする道央圏を道南圏を最短で結ぶ延長153kmの主要幹線道路で、地域の観光・暮らし・産業を支える重要な役割を担う路線である。協働型道路マネジメント検討会の対象は、札幌市南区内の延長40km区間で、当該区間は、渋滞や特殊規制区間などの道路としての課題が多い。また、道路事業としては、小金湯拡幅事業、定山溪拡幅事業を事業中である。



図-1 該当路線図

本検討会の対象となる札幌市南区は、札幌市の約60%の面積を有し、区域には支笏洞爺国立公園を含み、豊かな緑と温泉街を核とする風光明媚な観光地として、市民は元より、道内外からの観光客が多く訪れる地域である。豊平峡、定山溪の2つのダムを有する他、恵まれた自然を生かし、丘陵公園や緑地、スキー場なども整備されている。農業は、果樹栽培が盛んで、観光果樹園が集積している。昭和47年の札幌冬季オリンピック時にメイン会場として、地下鉄の開通や選手村(現在は五輪団地)などが整備され発展を遂げたが、近年は、札幌全市で人口は増加傾向にもかかわらず、南区は人口の減少が

進み(表-3)、65歳以上の高齢者割合も札幌全市を上回る30%を越え(表-4)、地域活性化対策が大きな課題となっている

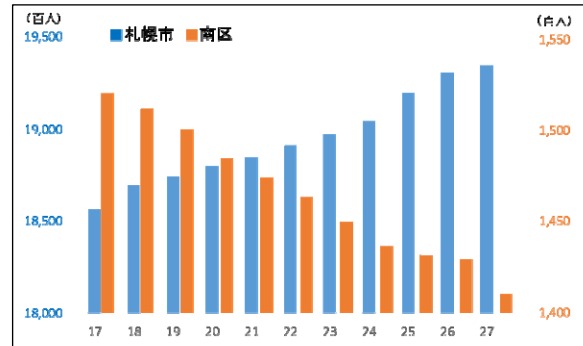


表-3 札幌全市・南区の人口の比較 (出典：札幌市)

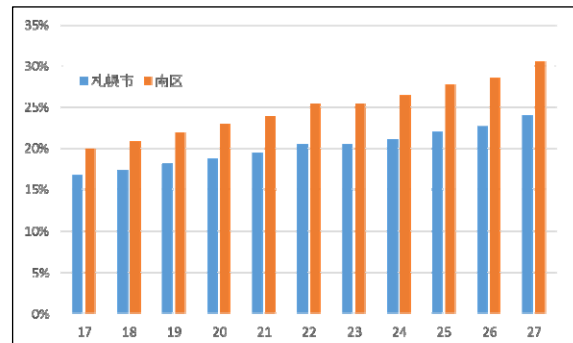


表-4 札幌全市・南区の65歳以上の高齢者割合の比較 (出典：札幌市)

## 3. 国道230号協働型道路マネジメント検討会

### (1) 「協働型道路マネジメント検討会」の構成

「協働型道路マネジメント検討会」(以下 検討会)のメンバー(表-5)には、地域活動を実践する団体、観光関係、教育関係、行政など多様な主体よりメンバーを選出し構成した。また、協働型道路マネジメントの先進地域にて、実際に検討に携わられてきた北見工業大学高橋清教授を委員長に、先進地での進め方や事例など、過去の知見を活かし、円滑な検討会の運営に努めている。

委員(分類)	所属団体
委員長	北見工業大学 高橋 清教授
地域活動団体	札幌シーニックバイウェイ 南区の果樹と農業を考える会 (農業関係者団体)
観光関係	定山溪観光協会
教育関係	東海大学
行政	札幌市 札幌市 南区 札幌開発建設部

表-5 協議会メンバー

検討会は年3回程度の開催を行い、路線全体の基本方針計画(以下 基本プラン)(付録-1)の検討・作成、個別課題に対応する活動計画(以下 推進プラン)(付録-2)の検討・実施について参加委員と議論を進めて

いる。推進プランの実施段階（試行を含む）まで進んだ計画については、効果把握及び検証を実施するPDCAサイクルによる計画検討を進めている。（図-2）

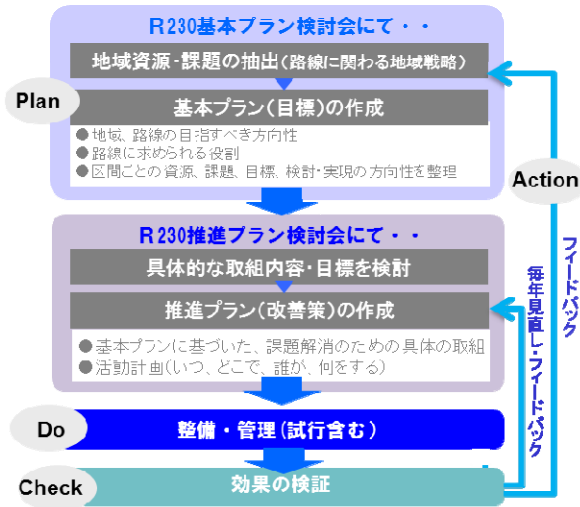


図-2 協議会のPDCAサイクル

(2) 「基本プラン」

「基本プラン」は、国道及び周辺地域全体について、「国道230号の役割（どう・何にかかわっているか）」、「国道230号の特徴・改善方針」として、地域の観光や景観などの魅力、交通・防災・管理などの課題、地域魅力向上や課題解決に向けた方針について意見交換を行い、国道230号の協働型道路マネジメントの活動を進めるための目標として「生活」「産業・観光」「防災」の3つを柱とした基本プランを策定。各柱を重点的に進める重点エリアを設定した。

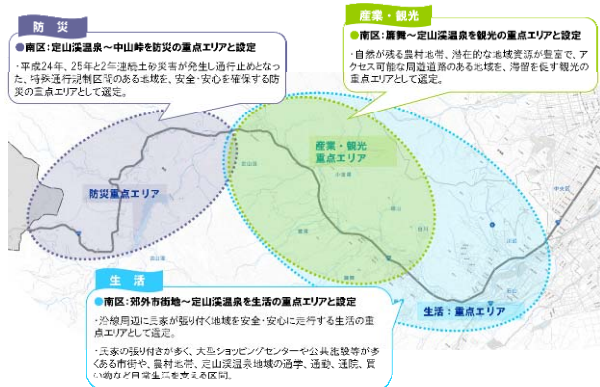


図-3 基本プラン：重点エリアの設定

(3) 「推進プラン」

「推進プラン」は、基本プランで設定した重点エリアを基に、地域状況に応じた課題解決の重要性や即応性、中長期の対応、協働体制の構築などを検討会として、総合的に判断し個別課題に対応する活動計画「推進プラン」の検討・実施を行っている。

札幌開発建設部では、推進プランを議論の進捗状況に合わせ、下記の3段階のステップで整理を行っている。推進プランにおけるステップ分けについては、ステップ

Tatsuya uemura , Kiyoshi takahashi, Kazuya ikeda

UPすることで、対策内容の具体化及び検討熟度を高めステップ3では、試行を含む対応の実施を行う。

開始当初は、参加委員も馴染みが無い中での取り組みでもあり、多少の混乱も見られたが、回を重ねることで理解度も上がり、現在では検討会の円滑な運営と参加委員の活発な議論を促す一助となっています。

推進プランにおける各ステップ	
ステップ1	具体的な目標・改善方針 (何を目標に？どこを改善するか？)
ステップ2	対策（取組ニュー） (具体的に取り組むことは何か？)
ステップ3	取組メニューの活動計画 (いつ・どこで・誰が・何をする？)

表-6 推進プランにおける各ステップ

4. 「推進プラン」の対応状況

札幌開発建設部における協働型道路マネジメント検討会は、推進プランまで進んでおり代表的な事例について報告する。

(1) ステップ1 具体的な目標・改善方針の取組

「さくらの森周辺の道路空間検討」

小金湯さくらの森は、札幌市による整備の公園で、地域や関係団体が連携し「地域が核となるさくらの名所」として平成28年春の開園を予定している。小金湯さくらの森の開園は、地域の関心が高く、検討会でも開園にあわせた対応について意見があげられた。そこで、小金湯さくらの森周辺の5kmを対象に

- ・道路維持管理における改善の検討
  - ・道路景観向上にむけた改善の検討
- を推進プランとして対応を実施している。



図-4 さくらの森周辺の道路空間検討



写真-1 近傍の標識

写真-2 道路敷地内の看板

同区間には、道路施設による景観阻害要因(写真-1)、屋外広告物など沿道施設による景観阻害要因(写真-2)など、道路維持管理における課題もあり、下記の観点を踏まえ検討会を実施している。（表-7、表-8）

<p>期待される効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の満足度の高い道路景観改善が実施</li> <li>・地域の道路景観への意識向上</li> <li>・地域と協働した維持管理の実現</li> </ul>
---

表-7 期待される効果

<p>工夫した点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象区間を設定することにより、路線全体の総花的な議論を抑制し、意見の集約化を図る。</li> <li>・地域の関心が高い事柄を議論対象とすることで活発な議論を促す。</li> </ul>
--

表-8 工夫した点

この取組は、ステップ1段階で、現地調査を実施したレベルであるが、意見交換において「地域で環境保護のに取り組む場所があり、沿線樹木を協働で伐採したい」など維持管理への参画意向が伺えた。今後は検討熟度を高め、対策内容の具体化、試行を含めた対応の実現に向け検討を進めたい。

(2) ステップ2 対策 (取組メニュー)

「東海大協働プロジェクト」 (以下 東海大WS)

検討会では、当該地域の情報発信に関する課題が上げられ、効果的な情報発信手法が求められた。そこで、国道230号周辺を安全安心で快適に楽しむための道路情報、地域情報の効果的な情報発信手法について、東海大学中尾ゼミに札幌開発建設部が参加しワークショップ形式による意見交換を実施している。(表-9, 10)

<p>期待される効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の受け手 (ユーザー) としての情報発信の課題・問題点の把握。</li> <li>・道路情報発信における自動車ユーザー以外の道路利用者、若年層の意見を含めた幅広い年代からの意見を反映。</li> <li>・若年層が求め、興味のある情報を地域として把握し、今後の情報発信において反映</li> </ul>
--

表-9 期待される効果

<p>工夫した点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東海大は工学部の学生では無いため、興味を持って、取り組みやすい項目を設定。</li> <li>・ワークショップは会議毎の議題を明確にし、次回のワークショップでの議題をゼミの中で検討するなどを議論の活性化を図る。</li> <li>・検討会で東海大学生自らが、委員へのプレゼンテーションを実施。学生が責任を持って検討する体制を構築</li> </ul>
--

表-10 工夫した点

昨年度 (平成26年度) は、定山溪までの1日旅行プランを学生に作成してもらい「旅行プランの情報をどのように収集するか？」を入口に、当該地域の情報発信

についての現状の把握及び課題を抽出した。現状と課題の把握では、若年層の情報収集ツールとしては、スマートフォンが主流であり、パソコンは補足的な利用、パンフレットなどの紙媒体は、待ち時間に目に入る場所にあれば手にするなど受動的ツールであることが伺えた。また、情報収集の手法としては、「キーワード」検索が主流であり「定山溪」など、既に認知している単語で情報収集が行われていた。このように、一般的なキーワードでは多くのサイトがヒットするため検索上位のサイト以外では情報を確認しないなど、若年層の情報収集においては、地域の詳細情報に辿りつきにくい状況にあるという傾向が把握された。同様に、道路情報においても「情報はあるが、どのサイトでどんな事が知れるかわからない。」など、学生は日常的な自動車ユーザーでは無いことを差し引いても、道路行政における情報発信として大きな課題が把握された。(表-11) 東海大WSでは、今後の情報発信の対策として、下記の5項目取り組みメニューを検討し、検討会で提案した。(表-12)

東海大WSは、今年度 (平成27年度) も引き続き実施しており、豊滝除雪ステーション (以下 豊滝除雪ST) における紙媒体 (パンフレット) の配布手法について検討を重ねている。紙媒体配布の検討のため、東海大学のゼミ生達が、既存の紙媒体調査や地域の潜在的な情報、ニーズについてフィールドワーク実施、地域の方々へのヒアリング (写真-3) など実施した。

今後も東海大学と連携した協働プロジェクトについて継続し、多様な世代の視点を道路行政へ反映していきたい。



写真-3 東海大WSの様子

情報	現状と課題
全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若年層はスマートフォンが主流</li> <li>・キーワードに検索が主流</li> </ul>
地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報過多で、欲しい情報が無い。</li> <li>・地域資源は多くあるが、キーワード不明では検索が出来ない。</li> </ul>
道路	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路情報に接する機会が無い。</li> </ul>

表-11 現状と課題の把握

改善方針	取組メニュー案
1. 情報発信手法の改善	・1-1 イベント実施
	・1-2 紙媒体 (パンフレット) の配布
	・1-3 看板の設置
2. 情報内容の改善	・2-1 WEB掲載内容の改善
	・2-3 国道230号のブランド化

表-12 東海大協働プロジェクトの提案

### (3) ステップ3 取組メニューの活動計画

#### 「ヒヤリハットマップ配布」

検討会では、安全のための情報発信や、観光客等の地域内外の人も安全に走行できるような情報発信など、道路情報に関する意見も多くある一方、東海大協働プロジェクトでは、「道路情報に接する機会が無い」との課題が挙げられ、これらの対策として「ヒヤリハットマップ」の作成及び配布を実施した。(表-13, 14)

期待される効果
<ul style="list-style-type: none"> <li>道路の危険箇所の把握による、道路利用者の安全意識の向上</li> <li>道路情報の入手機会の増加</li> <li>地域情報による地域の周遊を促進</li> </ul>

表-13 期待される効果

工夫した点
<ul style="list-style-type: none"> <li>道路情報を手にするきっかけとして地域情報を掲載。</li> <li>北海道地区道路情報、北の道ナビなど道路に関するサイトをQRコードで記載するほか、道路緊急ダイヤルなどの道路情報を掲載</li> <li>配布箇所についても検討会や東海大WSにおいて検討し配布箇所を設定</li> <li>アンケート調査を実施し、PDCAサイクルによる見直しを行う。</li> </ul>

表-14 工夫した点

「ヒヤリハットマップ」については、道路情報のみでは興味を惹かないとの意見から、地域情報を入手することをきっかけに道路情報も提供できる手法を用いて、あわせて地域情報により地域の周遊を促すことも目的に作成した。配布については国道230号沿線を対象に地域住民やまちづくりセンター・東海大学など、また観光客を対象に道の駅望洋中山など観光施設、札幌都心部(地下歩行空間・札幌駅観光案内所)など、平成27年7月から約5,000部を配布をした。また、配布にあわせて対面アンケートを実施(9月20日日曜日、場所:中山峠、定山溪観光協会、豊滝除雪ステーション)、その効果把握を行った。アンケート結果(有効票127票)では、ヒヤリハット箇所において、事前に箇所を知ることにより、注意して走行するという方が6割を超えると

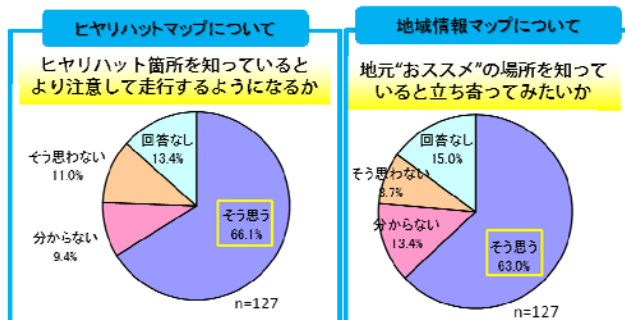


図-5 ヒヤリハット情報の提供

図-6 地元情報の提供

もに、地域情報においても、事前に「地元“おススメ”」の場所を知っていると立ち寄ってみたいが6割を超えており、事前情報の提供が、交通安全及び地域への周遊を促す動機付けとなることが伺えた。

### (4) ステップ3 取組メニューの活動計画

#### 「豊滝除雪STイベント」

豊滝除雪STは、除雪ST機能等の他24時間のトイレ・休憩所・駐車場などの休憩機能が設けられており、国道230号を通過する多くの方に利用されている。検討会では、地域活性化の課題となっている認知度向上に資する取組として、地域の農水産物を販売出来る環境や、豊滝除雪STを活用した情報発信などの意見があり議論を進めてきた。

期待される効果
<ul style="list-style-type: none"> <li>既存道路空間の利活用「道路を賢く使う」に資する取組</li> <li>地域PRイベントの実施による地域活性化</li> <li>豊滝除雪STにおける情報発信</li> </ul>

表-15 期待される効果

工夫した点
<ul style="list-style-type: none"> <li>地域活性化等に資する路上イベントに伴う道路占用について(以下 イベント通達)の活用</li> <li>イベント通達における地域の実施体制構築</li> <li>イベントと連動をした道路事業のPRを実施</li> <li>アンケート調査を実施し、PDCAサイクルによる見直しを行う。</li> </ul>

表-16 工夫した点



写真-4 駐車場の状況

写真-5 農産物の販売

豊滝除雪STは、道路施設であり通常の道路占用では、PRイベントの開催は認められていない。そこで、イベント通達による道路占用を用いることとし、占用条件に必要な「地方公共団体が支援するイベント」として実施出来るよう関係者・関係行政機関との協議・調整を行い体制を構築した。(表-17)そして、札幌市南区の地域資源である農産物販売・農業者の紹介とパンフレット等による南区のPRを目的とした、地域PRイベント「簾舞・豊滝・砥山農業生産物季節販売」が実現し、8月・9月の2回開催され両日も地元の方を含む多くの方が訪れ盛況に終了した。(表-18)

また、9月の開催時には、イベントと連携し、札幌開発建設部が主催する「道路ストック効果パネル展」(写真-5)を開催し、道路情報の発信も実施した。

条件2. 道路敷地の占用主体(以下のいずれかの者)	
1. 地方公共団体	
2. 地方公共団体を含む地域住民・団体等の関係者などの協議会等	
3. 地方公共団体が支援するイベントの実施主体 (地方公共団体が支援する理由および内容ならびに当該路上イベントに係る 占用の許可に関する意見を占用許可申請書に付しているもの)	

表-17 イベント通達における占用主体

開催結果	第1回目(8月2日)	第2回目(9月20日)
開催時間	1000~1400	900~1300
参加農園数	20園	15園
主な販売物	トマト、ズッキーニなどの夏野菜、葉物野菜、サクランボ、ブルーベリー、ジャム・ジュース等の加工品 など	ジャガイモ、葉物野菜、ブルーベリー、フドウ、ジャム・ジュース等の加工品 など
来場者数	457名 (降車人数725名)	609名 (降車人数1040名)
駐車場総利用数	419台	474台
地域還元	売り上げの一部をまちづくり協議会へ還元	売り上げの一部をまちづくり協議会へ還元
1回目と2回目の改善点・変更点	イベント開始時が非常に混雑	開始時刻の前倒し、開始前の入場制限
	休憩スペースが少ない	テント外への休憩スペース増設
	農園名がわからない	各農園名プレート制作
	その他	配送サービスの実施、整備効果パネル展示を開催

表-18 イベントの開催結果

なお、イベントの効果検証のため、来場者を対象としたアンケート調査及び実施団体を対象としたヒヤリング調査を実施した。アンケート結果では、訪れた方の満足度も高く、同様のイベントを実施した際の再来意向は9割を超えるなど、好評を得られた。実施団体のヒヤリング調査では、次年度以降の継続的な実施と道路清掃及び除草などの道路維持管理へも取組も意欲があり、札幌開発建設部としても、道路維持管理への対応を含め豊滝除

付録-1 基本プランと推進プラン

基本プラン	目標・改善方針	ステップ1	ステップ2	ステップ3
		①具体的な目標・改善方針	②対策(取組メニュー)	③取組メニューの活動計画
生活	○自動車利用者への渋滞対策	・交通混雑、渋滞の緩和	—	○小金湯拡幅・定山溪拡幅事業(継続)
	○地域意見を反映する利便性が 高く、安全・安心の道路づくり	・安全のための情報発信 (野生動物、夏・冬通した注意情報)	○情報発信(マップ:ヒヤリハット情報) ○情報発信(紙媒体(パンフレット)の配布:道路情報)	○マップ (ヒヤリハット情報): <b>試行</b>
産業観光	○潜在する地域資源の有効活用	・受け手に届く、効果的な情報発信 (情報発信の手法、内容)	○情報発信(プラットフォーム) ○情報発信(マップ:地域情報) ○情報発信(紙媒体(パンフレット)の配布:地域情報) ○情報発信(WEB掲載内容の改善:地域情報) ○情報発信(看板の設置:地域情報)	○マップ (地域情報): <b>試行</b>
	○既存の道路施設を活用した情報発信	・ターゲット(市民、外国人、レンタカー利用者)毎の効果的な情報発信(情報発信の対象)	—	—
	○道路沿道の魅力的な休憩・滞在空間の創出	・周遊(時系列)、リピーター(季節毎)へと繋げる情報発信(情報発信の内容)	—	—
	○周辺道路・地域資源へのわかり易い案内	・訴求力のあるネーミングによる情報発信	○情報発信(国道230号のブランド化)	—
	○観光拠点をつなぐ景観向上	・通過利用者への情報発信の強化	○情報発信(既存施設活用:道の駅、豊滝除雪ST等) ○情報発信(紙媒体(パンフレット)の配布:地域情報)	—
	○安全・安心を確保する道路維持管理	・豊滝除雪ステーションの活用検討(情報発信)	○豊滝除雪ステーションを活用したイベントの実施	○イベント(地域情報): <b>試行</b>
防災	○既存道路施設を活用した災害時の効果的な情報発信	・地域の農産物を販売できる環境が必要	○情報発信(イベント実施)	○イベント(地域情報): <b>試行</b>
	○安全・安心を確保する道路維持管理	・豊滝除雪ステーションの活用検討(物販等)	○豊滝除雪ステーションを活用したイベントの実施	○イベント(地域物販): <b>試行</b>
	○安全・安心を確保する道路維持管理	・景観を活かした休憩・滞在空間の創出 ・まちづくりを踏まえた土地利用	○ビューポイントバーキングの整備	○ビューポイントバーキング
○安全・安心を確保する道路維持管理	・空き家等景観阻害の改善	—	—	—
○安全・安心を確保する道路維持管理	・観光客等、地域外の人にも安全に走行できるような情報発信	○国道から旧道(フルーツ街道)への案内・誘導	○情報発信(マップ:地域情報) ○情報発信(看板の設置:地域情報)	○マップ(地域情報): <b>試行</b>
○安全・安心を確保する道路維持管理	・中山峠等安全を第一とした維持管理	—	—	○中山峠防災対策事業(継続)

雪STを活用したイベントについて継続した連携を進めていきたい。

## 5. まとめ

国道230号は道路整備について進んでいることもあり、地域住民の道路に対する不満・課題が少なく、検討会では地域課題や、地域活性化の取組に議論・意見が偏る傾向もあり、協働型道路マネジメントの目的でもある多様な主体と連携し、「地域のもつ資源を最大限に活用した地域の魅力向上」を図るとともに、「より効率的・効果的な道路の整備・管理を行い、道路の機能・役割を最大限に発揮させる」取組に結びつく議論・検討を進めていきたい。

また、「簾舞・豊滝・砥山農業生産物季節販売」や東海大WSなど、本検討会の推進プランの取り組みを行う団体等との体制について、他の地域の体制を参考に検討していく必要がある。

本検討会が過年度までの議論・検討を続けたことが、本年度から「ヒヤリハットマップ」や「豊滝除雪STのイベント」など実施段階まで進んだ「推進プラン」の取組として行われ、協働型道路マネジメントの形と効果が目に見える状態になっており、これまでの検討会として行ってきたことが実を結びつつある取り組みとなっている。

今後とも、地域の魅力向上につながる道路整備及び維持管理について、国道230号協働型道路マネジメント検討会で委員を含めた地域住民の皆様と議論・検討・実践を行いたい。

最後に、本検討会委員をはじめ、関連するメニューに取り組んで頂いた地域の皆様等に謝意を表します。